

第 105 春季年会「イノベーション共創講演賞」表彰

産学交流委員会

日本化学会産学交流委員会では、1996 年度開催の第 72 春季年会から若い世代の講演発表者の研究活動の奨励を目的として「講演奨励賞」を、2008 年度からは「優秀講演賞（産業）」と改称して講演発表者を顕彰してきました。2012 年度からは、対象をアドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）で実施される ATP ポスター（2020 年度からイノベーション共創プログラム（CIP）ポスター）に限定して、審査・選考、表彰を行ってまいりました。今年度からは「イノベーション共創講演賞」に名称を変更し、第 105 春季年会にて審査・選考を行いました。

この「イノベーション共創講演賞」は、「産業に対する寄与が期待される基礎的または応用的な概念、アイデア、実験手法、実験結果などについての発表であり、発表者の研究に対する主体性や貢献度が優れ、且つ今後の研究活動の一層の発展の可能性を有すると期待されるもの」に対して会長名で表彰するものです。

3 月 26 日(水)～29 日(土)に関西大学千里山キャンパスにて開催された第 105 春季年会では、審査希望のあった研究者の講演を対象に産業界の審査員が審査しました（今年度より年齢制限を廃止）。CIP 企画小委員会および産学交流委員会による厳正な選考の結果、申請のあった 63 件の中から今年度の受賞者として下記の 3 名が選出されました。高い評価を得て表彰に値すると選考された受賞者には、その栄誉をたたえ、さらに一層の研鑽を積まれますことを期待して、所属機関長を經由して表彰状をお届けしました。

イノベーション共創講演賞 受賞者一覧

[新素材・材料]

安藤 翔太（東京大学 大学院新領域創成科学研究科・特任助教）

[PB]-1vn-43 「航空機用炭素繊維複合材料への応用を志向した高耐久性・リサイクル性・再生形成を持つ資源循環型ポリロタキサン配合エポキシ樹脂の開発」

[新素材・材料]

小林 裕一郎（大阪大学 大学院理学研究科・助教）

[PB]-1vn-32 「廃棄硫黄を用いた高機能ポリマー材料の創製」

[医療・ヘルスケア・バイオテクノロジー]

森屋 亮平（北里大学 理学部・講師）

[PB]-1vn-54 「生物発光イメージングの高感度化を実現する高輝度生物発光基質 AkaSuke の開発」